新潟教育会報

第89号
公益財団法人新潟教育会
（新潟教育会館内）
代表理事　川端　弘実
〒951-8104
新潟市中央区西大畑町590番地3
TEL兼FAX　025-222-2971
URL.　http://kyouikukai.jp
E-mail　事務局　jimu@kyouikukai.jp
研究所　kenkyujo@kyouikukai.jp
休館日　月曜日

・期　間　平成31年1月10日（木）～1月16日（水）
・作品鑑賞・解説会　平成31年1月12日（土）
新潟県民会館（ギャラリーA）

授業を創ろう！そして語ろう！

理事　荒木　正

二〇一三年に発表されたオックスフォード大学発の論文「雇用の未来：コンピュータ化によって仕事は失われるのか」は世界に大きな衝撃を与えました。今後、一〇～二〇年で総雇用者の約半分の仕事が自動化され、コンピュータに取って代わられると予想しています。これまで豊富な専門的知識と経験が求められた職業においても消えていく運命にあり、一方で、全く新しい職業が誕生するというのです。日本でも同様の説が発表され、衝撃を持って受け止められたのは記憶に新しいところです。

このような確定的な未来予想は、次期学習指導要領に大きく反映されています。そこには、「主体的・対話的で深い学び」を通して、実社会で活用できる汎用的能力の育成を図っていくことへの強い期待が示されています。このことについては、OECDでは「キー・コンピテンシー」、内閣府は「人間力」、経済通産省は「社会的基礎力」という表現で示しています。これらに共通するのは、「探究」「創造」「協同」という概念を常に意識し、教育活動の中で確かなものに育てていってほしいという願いです。

学習指導要領の全面実施を目前に控えた今、教育の現場から、こうした要請に応えるべく研究体制の構築と確かな実践への決意を感じ取ることができます。教育の方法が変わらなければ、二一世紀を生きる子どもへの責任を果たせないと考える教師の使命感が、ひしひしと伝わってくるのです。

これから教育現場において求められるのは、一人一人の教師が授業改善を自分事として捉え、協同性を発揮しながら、実践を粘り強く積み重ね、新たな授業像を確立していくことです。そのためには、自分の研究教科・分野で授業を磨き、互いに授業を公開し、提案していくことに尽きます。授業を創り、語り合うのです。教師自身が「主体的・対話的で深い学び」のある実践を進める先に、時代が求める授業像が確かなものになっていくのだと思います。教育の専門職としての力量が試される時代を迎えたとも言えるのです。

一年の歩み

事業報告

夏季大学講座

期　日　8月4日（土）
会　場　長岡リリックホールシアター
参加者　約470人

教師や社会人としての資質を高める機会とするために、教育に関する原理的研究や教育課題解決の方策及び社会問題等について学ぶ講座を実施した。

○講師　桐岡　隆澄 様
（リクルートコミュニケーション
エンジニアリング代表取締役）
○演題　「将来に活躍する新人の
育成を考える」
～企業における
若手育成をめぐって～

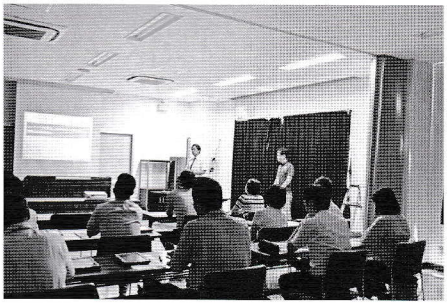
〈受講者の声～抜粋～〉
▼「人を育てる上で大切にしたいこと、それは安心の場づくりである。」というお言葉が心に残った。とかく個人をどうするか、に心を掛けることが多いが、そうではなく、第一歩は「安心の場＝チームワーク」をつくるということである。

第10回 教師力アップ講座

期　日　7月29日（日）
会　場　新潟教育会館
参加者　延べ34人

具体的な指導方法を学ぶための2講座を実施した。

⊙第1講座
「小学校のプログラミング教育
導入に向けて
～背景と考え方についての講義と
プログラミング体験～」
講師　片山　俊郎 様
日本デジタル教科書学会副会長
新潟県・新潟市小学校教育研究
会事務局長
新潟市立新潟小学校教諭



〈受講生の感想〉
▼プログラミング教育の導入に関して不安を持っていた教師の一人でありましたが、今日の研修を通して、少し不安が減りました。

⊙第2講座
「温かい学級と強い学級」
～秋から学級をバージョン
アップする実践方法～
講師　橋本　定男 様
新潟薬科大学非常勤講師

〈受講生の感想〉
▼学級づくりは、学校経営と同じだなと思ってお話を聴きました。表と裏の両面あって「見えざる手」（仕掛け）が必要であること、教師の願いを子どもの主体性に変換させていくこと、勉強になりました。

保護者の子育て講座
子どもの話を聴いていますか

期　日　9月2日（日）
会　場　新潟教育会館
参加者　2人

自分の気持ちを聴いてほしいという子どもの思いを、効果的に聴き取ってやる方法についての講座を実施した。

第44回 教育相談研修会

期　日　8月16日（木）～18日（土）
会　場　じょいあす新潟会館
参加者　21人

子どもの問題行動を解決し、解消するために信頼関係の確立や子ども理解の力量を高めるための研修講座を実施した。

〈受講生の声～抜粋～〉
▼今回の教育相談研修会では、とても多くの実習を通して、カウンセリングの技法を学ぶことができた。
一つ一つの技法の意味を知ることで、その役割はとても重要だと感じることができた反面、実際に活用するとうまくできないという仮題もあった。たくさんの実践を積んで学んだことが教育現場で充分に生かせるようにしていこうと思う。
▼自分のクセを自覚したり、トレーナーから指摘されたりし、再認識する機会となりました。感情を移入したり、解決に導いたりする傾向性。腕を組んだり、腰に手を当てたりする所作の習慣。これら、自分自身を見つめ直すことができ感謝いたします。

新潟教育会

特別支援教育の助成

県内小・中学校の特別支援学級、特別支援教育諸学校（学級）及び特別支援教育の教室の6校（級、室）に、各5万円を助成した。

〈助成校〉
○上越市　南本町小学校
○見附市　今町小学校
○聖籠町　山倉小学校
○新潟市　小合東小学校
○出雲崎町　出雲崎中学校
○新潟市　南浜中学校

昭和47年以降本年度まで、助成した学校（学級）は36校（学級）に及んでいる。

・選考委員会　10月5日(金)
・理事会で決定　10月13日(土)
・助成金授与式　11月21日(水)

教育資料室の運営

「資料選定委員会」を設け、教育資料室の資料を左記の一から三に沿って選別し「空きスペースの確保」「新規配架」「データベース作成の準備」等を行ってまいりました。

一　現存資料で今後も保存する資料
①新潟教育会の資料
②教育史上の貴重な資料
③教育関係諸機関の記念誌、名簿など
④県内の師範学校にかかわる資料
⑤新潟県内の教育資料

二　今後収集・保存する資料
①～④の資料

三　活用しやすい資料室に向けて
○保存資料以外は他へ移動又は廃棄する。
○蔵書データベースを作成し、活用する。

このことは、これまでも会報に掲載し、皆様からご理解をお願いしてきたところです。

廃棄する資料等につきましては、五月末もって一応の区切りとさせていただき、六月から廃棄作業に入る予定です。もし、資料の保管・管理・活用・廃棄についてのお問合せがありましたら、新潟教育会事務局までお願いいたします。

【資料選定委員会】
斎藤寿一郎（委員長）　伊藤　充
羽入　正路　川端　弘実　熊倉　忠夫
樋口　光栄　宮川由美子　五十嵐幹郎

次年度『第二十三回教美展』は今年の九月に開催です！

教美展実行委員長
日諸　博美

一月十六日、第二十二回『教美展』を大盛況のうちに終了することができました。例年秋に開催させていただいてきた『教美展』ですが、今年度は会場の都合で、一月のこの時期にしか日程を確保できませんでした。

一月の開催と決まって、一番の心配は【天候・大雪】です。昨年一月の【大雪】のことが頭を過ぎります。「もしも、九日の搬入&受付&展示の日に大雪になったら大変なことになってしまう。」不安を抱えながら、万が一の場合のことも念頭に準備作業を進めてきました。幸いなことに、九日の搬入日は天候にも恵まれ、と言うよりも会期中の七日間が天候に恵まれました。来場者も千百人を数え、【作品鑑賞・解説会】にも例年以上にたくさんの皆さんから参加いただくことができました。むしろ秋季開催の年以上に大盛況の『教美展』となりました。

でも、嬉しいことだけでもありません。課題も見えてきます。出品点数の減少です。今回百七点の展示ができましたが、ここ二、三年減少傾向が続いています。『新たな出品者の確保』のための具体的な方策を策定・実施して、目標とする百二十点前後の展示作品数の保持を・・・

『是非、あなたが新たな出品者に！』

二十三回展は、九月開催となります。

『早速作品の御準備を・・・』

会務報告

〈平成30年〉
4月18日(水)　会計監査会
4月21日(土)　第1回理事会
5月9日(水)　第1回連絡会
5月12日(土)　第1回評議員会
5月12日(土)　第2回理事会
6月1日(金)　事業案内、刊行物等発送
6月17日(金)　「冊子　報告書」発刊
6月23日(土)　「第44回教育相談研修会」実行委員会
7月6日(金)　第2回連絡会
8月28日(火)　第3回連絡会
9月2日(日)　教育アドバイザー説明会
9月8日(土)　研究論文集審査打合せ会
9月22日(土)　「第22回教美展」第1回実行委員会
10月5日(金)　特別支援教育助成校選考委員会
10月13日(土)　第3回理事会
10月19日(金)　第4回連絡会
11月6日(火)　教育研究論文第二次審査
11月17日(土)　「第22回教美展」小委員会
12月7日(金)　第5回連絡会
2月13日(木)　資料選定委員会

〈平成31年〉
1月25日(金)　第6回連絡会
2月2日(土)　「第22回教美展」第2回実行委員会
3月2日(土)　「第23回教美展」第1回小委員会
3月5日(水)　第7回連絡会
3月16日(金)　第4回理事会※
第2回評議員会※

※は実施予定

教育アドバイザーの派遣

現職の皆さんの教師力・授業力の向上や保護者の皆さんの子育てを支援するため、30年度は40件の要請に対して教育アドバイザーを派遣した。今年度、当研究所に登録しているアドバイザーは１０２名である。

アドバイザーリストをご覧いただくとお分かりのように、その支援分野は多岐にわたっている。経験と識見豊かな教育アドバイザーを大いに活用願いたい。

月別派遣実績

4月	0
5月	1
6月	4
7月	5
8月	6
9月	3
10月	9
11月	4
12月	4
1月	1
2月	1
3月	2

派遣の傾向

◎派遣内容

校内研修が全体の半分を占めている。授業研究の指導・助言、講話などである。月別派遣実績では10月が増加した。様々な研究発表会や音楽発表会に向けて、現職の皆さんが「さらなる向上」を目指していることが伝わってくる。

◎派遣地域

新潟市を含む下越地区は26件、佐渡市は2件、中越地区は12件であった。「遠いから」と躊躇せず、相談してほしい。

教育アドバイザーは県内各地に居住しているので、まずは、「アドバイザーリスト」に目を通してほしい。

◎派遣の実際

「新潟教育研究所」の所報第40号に、今年度派遣した教育アドバイザーの「アドバイス日記」並びに「教育アドバイザーを要請して」が掲載されているのでご覧いただきたい。

「教育研究論文集第24号」の発刊

県内の小・中学校及び特別支援学校の教員の優れた研究実践や研究成果を広く紹介し、読者である教職員の研究意欲と資質・指導力の向上を目的として発刊した。

●発刊　平成31年３月

なお、入選者や論題等は、左表の通りです。

平成29・30年度 教育研究論文第24集 入選者一覧

氏　名	勤務校	教科・領域等	論　題
瀬下　真心	長岡市立阪之上小学校	小学校算数	普遍単位の量感を身に付ける指導の工夫 －第２学年「長さ」における「普遍的任意単位」の導入を通して－
五十嵐敦志	新発田市立外ヶ輪小学校	小学校理科	小学校中学年理科における仮説を立てる力を育成する指導法とその効果 －The Two Question Strategy（2QS）を用いた実践を通して－
堀田　祐嗣	長岡市立川崎東小学校	小学校図画工作	思いを伝え合い、見方を広げる鑑賞活動の工夫 －アートカードを活用した段階的な鑑賞活動を通して－
近藤　拓自	新潟市立東山の下小学校	小学校体育	自分の体の動かし方について考える鉄棒を使った運動遊びの指導 ～ 運動を表現するスポーツオノマトペの低学年での導入 ～
櫻井　朝之	新潟市立有明台小学校（上越教育大学大学院）	小学校体育	ネット型の系統的な学びの確立に向けた低学年からのゲーム指導
本間　伸吾	新潟市立葛塚小学校	小学校体育	体育「表現」の動き方が分かるための効果的な指導法の在り方 －「アイディアボード」と「三つの間」の活用を通して－
三本　雄樹	新潟市立小針小学校	小学校体育	水泳授業における『思考力』の向上が泳力に与える影響 －技能差のあるバディシステムによる「学び合い」を取り入れた実践－
佐藤　正秀	長岡市立南中学校	中学校英語	「ジャーナル」を活用したライティング指導 －書くことの fluencyの育成をめざして－
小塚　忠昭	新潟市立白新中学校	中学校生涯学習	『R-PDCA-Rサイクル』をベースとした地域教育プログラム構築に向けた研究 ～「地域との連携・協働、そして地域への還元～

「教育調査報告書第8号」の発刊

様々な教育課題について、教職員や保護者の意識や実態を調査し、報告書の発刊を通して、現状と改善の方法を提案する。本年度は、内容や調査方法を検討した。発刊は、来年度となる。

教育会館の活用

新潟教育会館の研修室、資料室を教育研究団体や要請のあった団体に貸与し、施設の活用を図った。

・使用団体　延べ　三〇一団体
・使用者　延べ　五、二四〇人

教育情報の発信

有意で、適時性のある教育諸情報をホームページや各種広報誌で発信した。

※「教育会報」（年３回）「教育研究所所報」（年３回）「ホームページ」「要覧」等

あとがき

本号は、本年度の会務及び事業の報告を中心に編集しました。

みなさまのご支援のおかげで、当初計画した事業等が無事に実現できました。ありがとうございました。

新潟教育会館は、月曜日を除く、平日の午前９時から午後４時まで開館しております。土・日の利用も可能ですので、大いにご利用下さい。